

はじめに

学際科学実験センター長 柴 和弘

学際科学実験センターでは、毎年、1年間の教育研究活動・研究支援活動並びに社会貢献等の実績を年報という形で報告しております。平成27年度も、遺伝子研究施設、アイソトープ総合研究施設、実験動物研究施設による3回の生命工学トレーニングコースの開催や北陸地区の動物実験やRI実験に関する研究・管理の技術向上のため研修会・研究会の開催を行いました。また、遺伝子改変動物分野が中心となって学際科学実験センターシンポジウムも開催しました。さらに、平成27年度は第2期中期目標・中期計画の最終年度に当たることから、本センター・各施設の活動並びに教員の教育研究活動に対して、客観的評価を行うことを目的として外部評価を実施しました。点検評価の方法は、他大学の各専門分野の先生方4名に評価委員になっていただき、各施設の研究教育支援や社会貢献等の資料および各教員の研究教育活動の資料と外部評価発表会（平成27年12月25日開催）での専任教員の発表を基に、評価委員からご意見をいただきました。最終的に各評価委員から各研究施設の研究教育支援・社会貢献活動・施設管理業務等並びに各教員の研究教育活動について、「評価シート」により評価していただきました。各施設並びに各教員の研究教育活動については、概ね高い評価をいただきましたが、問題点として、施設・設備の老朽化対策や大型特殊機器類の維持・管理等や人員不足の施設に対する対策についてのご意見をいただきました。これは、全国の同じような教育研究支援施設の共通の問題でもあります。特に、研究支援のための大型の共同研究機器を多く有している学際科学実験センターは、施設の老朽化はもちろん、老朽化の進んだ設備機器や研究機器の更新が喫緊の問題となっています。当センターは、これまで、設備充実費が配当され、5つの研究施設の設備機器等を順次更新してきましたが、数年前から、予算配当がなくなり、大変困った状況になっております。今後は、利用者の方々と共同で設備機器・研究機器の更新を大学に要求できればと考えております。その際は何卒ご協力をお願いいたします。また、人員不足については、本センターの最も重要なミッションである教育研究支援業務を行う上で問題となっています。実験動物研究施設の精子及び受精卵の凍結保存、感染マウスのクリーニング、凍結精子・受精卵からのマウス作製および遺伝子改変動物作成等のための技術職員の補充や遺伝子研究施設の1階感染動物実験室の管理、シーケンス受託解析、質量分析受託解析、マイクロアレイ受託解析等を行うための技術職員の補充、機器分析研究施設の大型機器類の維持管理業務のための技術職員の補充並びにアイソトープ総合研究施設のPET/CT,SPECT/CT装置の維持管理やアイソトープ理工系研究施設の施設維持管理のための非常勤職員の補充が、充実した教育研究支援業務を行う上で、必要と考えております。現在、現人員で出来ることは、精一杯取り組んでおり、利用者の方々にご迷惑をおかけすることが無いように頑張っておりますが、今後、教育研究支援が更に充実・発展していくために、人員確保を目指していきたいと考えております。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。